第34回「秋田県内家計の消費動向調査」結果 (2019年12月調査)

~ 消費マインドは 2 期連続で悪化。先行きは引き続き慎重な見通し ~

【調査の要旨】

- **消費指数**は▲79.4(前期比 5.9 ポイント下落)と2期連続で悪化した。内訳をみると、景気判断 指数は▲42.7(同 5.4 ポイント下落)と4期連続で悪化、暮らし向き判断指数は▲36.7(同 0.5 ポイント下落)と2期連続の悪化と、ともに悪化となった。
- **今後の見通し**は▲89.0 (今回調査比 9.6 ポイント下落) と悪化の見通しとなっている。内訳としては、景気判断指数が▲45.6 (同 2.9 ポイント下落)、暮らし向き判断指数が▲43.4 (同 6.7 ポイント下落) と、ともに悪化が見込まれている。
- 大きな買い物への支出意向は、「予定がある」と回答した世帯の割合は、「海外旅行」が 2.2% (前期比 0.9 ポイント上昇) と 2 期連続で上昇した一方、「自家用車の購入」は 3.9%(同 0.5 ポイント低下)、「住宅、土地の購入」は 0.9%(同 0.9 ポイント低下)とともに 2 期連続で低下し、 「住宅リフォーム」は 1.3%(同 3.1 ポイント低下)と 3 期ぶりの低下と、3 項目で低下となった。
- > 家計簿調査は、収入面では可処分所得(収入の手取り額)が497千円となり、前年同期比で102千円の増加となった。一方、支出合計は391千円となり、前年同期比で6千円の減少となった。この結果、平均消費性向(家計支出/可処分所得)は78.7%(前年同期比21.9ポイント低下)となった。
- **節約の意識**について、日々の生活でどの程度節約を意識しているか尋ねたところ、「かなり意識している」が 38.6%、「やや意識している」が 53.9%となり、これを合計した「(節約を) 意識している」と回答した世帯は 92.5%と、昨年(平成 30 年 12 月) 調査(92.3%) から 0.2 ポイント上昇し、小幅ながらさらに割合を高めた。

2020年1月

株式会社フィデア情報総研

目次

消費指	数数	
消費指	数(内訳)	
(1)	景気判断の概況	g
(2)	景気判断の推移	4
暮ら	し向き判断	5
(1)	暮らし向き判断の概況	5
(2)	暮らし向き判断の推移	<i>6</i>
支出意	·向	7
支出	意向DIの推移	7
支出	意向(大きな買い物)の推移	8
家計簿	調査	
特別調	査	11
節約(の意識について	11
(1)	節約の意識について	11
(2)	節約を意識している理由	
(3)	節約を特に意識する出費	
調査の	概要	
	消(1)(((文字)の一つでは、「は、「は、「は、「は、」のでは、「は、「は、」のでは、「は、「は、」のでは、「は、「は、」のでは、「は、「は、」のでは、「は、「は、」のでは、「は、「は、「は、」のでは、	(2) 景気判断の推移 暮らし向き判断。 (1) 暮らし向き判断の概況。 (2) 暮らし向き判断の推移。 支出意向 支出意向 支出意向 (大きな買い物)の推移。 家計簿調査。 特別調査。 特別調査。 節約の意識について。 (1) 節約の意識について。 (2) 節約を意識している理由。

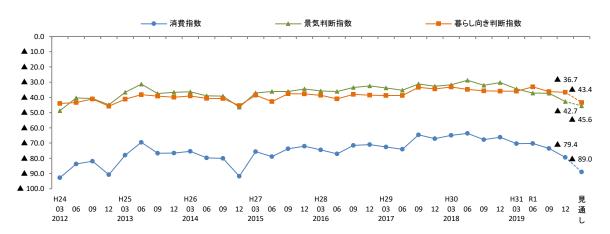


I. 消費指数

~消費マインドは2期連続で悪化。先行きは引き続き慎重な見通し~

消費指数は \blacktriangle 79.4(前期比 5.9 ポイント下落)と2期連続で悪化した。内訳をみると、景気判断指数は \blacktriangle 42.7(同 5.4 ポイント下落)と4期連続で悪化、暮らし向き判断指数は \blacktriangle 36.7(同 0.5 ポイント下落)と2期連続の悪化と、ともに悪化となった。

なお、今後の見通しについては▲89.0 (今回調査比 9.6 ポイント下落)と悪化の見通しとなっている。内 訳としては、景気判断指数が▲45.6 (同 2.9 ポイント下落)、暮らし向き判断指数が▲43.4 (同 6.7 ポイント 下落)と、ともに悪化が見込まれている。消費指数については、世帯収入が依然として伸び悩むなか、消費 税増税や物価上昇による家計の負担感は大きく、加えて今後の景気や暮らし向きへの先行き不透明感の高ま りもあり、先行きについては引き続き慎重な見通しとなっている。



図表1 消費指数の推移

調査時期		消費指数		
			景気判断	暮らし向き判断
2018年	12月	▲ 66.2	▲ 30.3	▲ 35.9
2019年	3月	▲ 70.4	▲ 34.5	▲ 35.9
	6月	▲ 70.3	▲ 37.2	▲ 33.1
	9月	▲ 73.5	▲ 37.3	▲ 36.2
2019年	12月	▲ 79.4	▲ 42.7	▲ 36.7
	(前期比)	(▲ 5.9)	(▲ 5.4)	(▲ 0.5)
	(前年同期比)	(▲ 13.2)	(▲ 12.4)	(▲ 0.8)
2020年	見通し	▲ 89.0	▲ 45.6	▲ 43.4
	(今回調査比)	(▲ 9.6)	(▲ 2.9)	(▲ 6.7)

【指数の見方】

消費指数は景気判断指数(景気・雇用環境・物価の3項目で構成)と暮らし向き指数(世帯収入・保有 資産・お金の使い方・暮らしのゆとりの4項目で構成)の合計からなり、値は200~▲200 の範囲をと ります。指数がプラスであれば家計の消費マインドは高揚していると判断します。一方、指数がマイナス であれば、消費マインドは低迷していると判断します。

図表 2 消費指数(内訳)の推移

消費指	数										
調査時期		消費指数									
			(1)景気判断指	数			(2)暮らし向き	判断指数			
				①景気	②雇用環境	③物価		④世帯収入	⑤保有資産	⑥お金の使い方	⑦暮らしのゆとり
2015年	3月	▲ 75.6	▲ 37.1	▲ 8.5	▲ 5.1	▲ 23.5	▲ 38.5	▲ 8.7	▲ 10.5	▲ 7.0	▲ 12.3
	6月	▲ 78.9	▲ 36.1	▲ 8.1	▲ 5.1	▲ 22.9	▲ 42.8	▲ 8.5	▲ 12.7	▲ 7.7	▲ 13.9
	9月	▲ 73.7	▲ 36.1	▲ 7.8	▲ 5.7	▲ 22.6	▲ 37.6	▲ 7.8	▲ 10.9	▲ 6.6	▲ 12.3
	12月	▲ 72.1	▲ 34.4	▲ 7.5	▲ 5.8	▲ 21.1	▲ 37.7	▲ 8.0	▲ 10.9	▲ 6.7	▲ 12.1
2016年	3月	▲ 74.5	▲ 35.8	▲ 10.0	▲ 6.8	▲ 19.0	▲ 38.7	▲ 8.7	▲ 10.5	▲ 7.6	▲ 11.9
	6月	▲ 77.1	▲ 36.1	▲ 10.5	▲ 6.0	▲ 19.6	▲ 41.0	▲ 8.7	▲ 12.4	▲ 7.4	▲ 12.5
	9月	▲ 71.5	▲ 33.5	▲ 9.5	▲ 5.3	▲ 18.7	▲ 38.0	▲ 8.2	▲ 11.1	▲ 6.5	▲ 12.2
	12月	▲ 71.0	▲ 32.5	▲ 8.6	▲ 5.1	▲ 18.8	▲ 38.5	▲ 8.0	▲ 11.4	▲ 6.9	▲ 12.2
2017年	3月	▲ 72.6	▲ 33.8	▲ 9.3	▲ 5.9	▲ 18.6	▲ 38.8	▲ 7.9	▲ 11.4	▲ 7.3	▲ 12.2
	6月	▲ 74.1	▲ 35.3	▲ 9.4	▲ 4.4	▲ 21.5	▲ 38.8	▲ 7.8	▲ 11.4	▲ 7.0	▲ 12.6
	9月	▲ 64.6	▲ 31.2	▲ 8.5	▲ 4.2	▲ 18.5	▲ 33.4	▲ 7.6	▲ 10.4	▲ 4.5	▲ 10.9
	12月	▲ 67.1	▲ 32.7	▲ 8.7	▲ 4.0	▲ 20.0	▲ 34.4	▲ 7.1	▲ 10.1	▲ 5.9	▲ 11.3
2018年	3月	▲ 64.9	▲ 31.7	▲ 7.6	▲ 3.1	▲ 21.0	▲ 33.2	▲ 7.1	▲ 9.6	▲ 5.5	▲ 11.0
	6月	▲ 63.6	▲ 28.8	▲ 6.1	▲ 1.8	▲ 20.9	▲ 34.8	▲ 7.1	▲ 10.1	▲ 5.6	▲ 12.0
	9月	▲ 67.7	▲ 32.0	▲ 8.6	▲ 3.7	▲ 19.7	▲ 35.7	▲ 8.2	▲ 10.6	▲ 5.5	▲ 11.4
	12月	▲ 66.2	▲ 30.3	▲ 7.7	▲ 2.4	▲ 20.2	▲ 35.9	▲ 7.8	▲ 10.6	▲ 5.3	▲ 12.2
2019年	3月	▲ 70.4	▲ 34.5	▲ 8.7	▲ 3.5	▲ 22.3	▲ 35.9	▲ 8.1	▲ 10.4	▲ 6.1	▲ 11.3
	6月	▲ 70.3	▲ 37.2	▲ 10.1	▲ 4.5	▲ 22.6	▲ 33.1	▲ 7.8	▲ 10.1	▲ 4.5	▲ 10.7
	9月	▲ 73.5	▲ 37.3	▲ 9.9	▲ 5.0	▲ 22.4	▲ 36.2	▲ 7.5	▲ 11.1	▲ 5.8	▲ 11.8
	12月	▲ 79.4	▲ 42.7	▲ 11.6	▲ 7.8	▲ 23.3	▲ 36.7	▲ 8.8	▲ 11.1	▲ 5.7	▲ 11.1
2020年	3月(見通し)	▲ 89.0	▲ 45.6	▲ 13.2	▲ 10.4	▲ 22.0	▲ 43.4	▲ 10.4	▲ 11.7	▲ 9.3	▲ 12.0

(前期	差)										
調査時期	胡	消費指数									
			(1)景気判断指	貨数			(2)暮らし向き	判断指数			
				①景気	②雇用環境	③物価		④世帯収入	⑤保有資産	⑥お金の使い方	⑦暮らしのゆとり
2015年	3月	16.2	9.3	4.9	4.0	0.4	6.9	2.0	1.3	1.7	1.9
	6月	▲ 3.3	1.0	0.4	0.0	0.6	▲ 4.3	0.2	▲ 2.2	▲ 0.7	▲ 1.6
	9月	5.2	0.0	0.3	▲ 0.6	0.3	5.2	0.7	1.8	1.1	1.6
	12月	1.6	1.7	0.3	▲ 0.1	1.5	▲ 0.1	▲ 0.2	0.0	▲ 0.1	0.2
2016年	3月	▲ 2.4	▲ 1.4	▲ 2.5	▲ 1.0	2.1	▲ 1.0	▲ 0.7	0.4	▲ 0.9	0.2
	6月	▲ 2.6	▲ 0.3	▲ 0.5	0.8	▲ 0.6	▲ 2.3	0.0	▲ 1.9	0.2	▲ 0.6
	9月	5.6	2.6	1.0	0.7	0.9	3.0	0.5	1.3	0.9	0.3
	12月	0.5	1.0	0.9	0.2	▲ 0.1	▲ 0.5	0.2	▲ 0.3	▲ 0.4	0.0
2017年	3月	▲ 1.6	▲ 1.3	▲ 0.7	▲ 0.8	0.2	▲ 0.3	0.1	0.0	▲ 0.4	0.0
	6月	▲ 1.5	▲ 1.5	▲ 0.1	1.5	▲ 2.9	0.0	0.1	0.0	0.3	▲ 0.4
	9月	9.5	4.1	0.9	0.2	3.0	5.4	0.2	1.0	2.5	1.7
	12月	▲ 2.5	▲ 1.5	▲ 0.2	0.2	▲ 1.5	▲ 1.0	0.5	0.3	▲ 1.4	▲ 0.4
2018年	3月	2.2	1.0	1.1	0.9	▲ 1.0	1.2	0.0	0.5	0.4	0.3
	6月	1.3	2.9	1.5	1.3	0.1	▲ 1.6	0.0	▲ 0.5	▲ 0.1	▲ 1.0
	9月	▲ 4.1	▲ 3.2	▲ 2.5	▲ 1.9	1.2	▲ 0.9	▲ 1.1	▲ 0.5	0.1	0.6
	12月	1.5	1.7	0.9	1.3	▲ 0.5	▲ 0.2	0.4	0.0	0.2	▲ 0.8
2019年	3月	▲ 4.2	▲ 4.2	▲ 1.0	▲ 1.1	▲ 2.1	0.0	▲ 0.3	0.2	▲ 0.8	0.9
	6月	0.1	▲ 2.7	▲ 1.4	▲ 1.0	▲ 0.3	2.8	0.3	0.3	1.6	0.6
	9月	▲ 3.2	▲ 0.1	0.2	▲ 0.5	0.2	▲ 3.1	0.3	▲ 1.0	▲ 1.3	▲ 1.1
	12月	▲ 5.9	▲ 5.4	▲ 1.7	▲ 2.8	▲ 0.9	▲ 0.5	▲ 1.3	0.0	0.1	0.7
2020年	3月(見通し)	▲ 9.6	▲ 2.9	▲ 1.6	▲ 2.6	1.3	▲ 6.7	▲ 1.6	▲ 0.6	▲ 3.6	▲ 0.9

調査時期	胡	消費指数									
		711321132	(1)景気判断指	台 数			(2)暮らし向き	判断指数			
				①景気	②雇用環境	③物価	(=)-=-501-10	④世帯収入	⑤保有資産	⑥お金の使い方	⑦暮らしのゆとり
2015年	3月	▲ 0.2	▲ 0.8	▲ 1.4	3.9	▲ 3.3	0.6	1.5	0.8	▲ 1.5	▲ 0.2
	6月	0.8	2.9	0.3	2.3	0.3	▲ 2.1	▲ 0.3	▲ 0.8	▲ 1.1	0.1
	9月	6.3	3.1	1.2	1.2	0.7	3.2	1.5	0.3	0.3	1.1
	12月	19.7	12.0	5.9	3.3	2.8	7.7	2.7	0.9	2.0	2.1
2016年	3月	1.1	1.3	▲ 1.5	▲ 1.7	4.5	▲ 0.2	0.0	0.0	▲ 0.6	0.4
	6月	1.8	0.0	▲ 2.4	▲ 0.9	3.3	1.8	▲ 0.2	0.3	0.3	1.4
	9月	2.2	2.6	▲ 1.7	0.4	3.9	▲ 0.4	▲ 0.4	▲ 0.2	0.1	0.1
	12月	1.1	1.9	▲ 1.1	0.7	2.3	▲ 0.8	0.0	▲ 0.5	▲ 0.2	▲ 0.1
2017年	3月	1.9	2.0	0.7	0.9	0.4	▲ 0.1	0.8	▲ 0.9	0.3	▲ 0.3
	6月	3.0	0.8	1.1	1.6	▲ 1.9	2.2	0.9	1.0	0.4	▲ 0.1
	9月	6.9	2.3	1.0	1.1	0.2	4.6	0.6	0.7	2.0	1.3
	12月	3.9	▲ 0.2	▲ 0.1	1.1	▲ 1.2	4.1	0.9	1.3	1.0	0.9
2018年	3月	7.7	2.1	1.7	2.8	▲ 2.4	5.6	0.8	1.8	1.8	1.2
	6月	10.5	6.5	3.3	2.6	0.6	4.0	0.7	1.3	1.4	0.6
	9月	▲ 3.1	▲ 0.8	▲ 0.1	0.5	▲ 1.2	▲ 2.3	▲ 0.6	▲ 0.2	▲ 1.0	▲ 0.5
	12月	0.9	2.4	1.0	1.6	▲ 0.2	▲ 1.5	▲ 0.7	▲ 0.5	0.6	▲ 0.9
2019年	3月	▲ 5.5	▲ 2.8	▲ 1.1	▲ 0.4	▲ 1.3	▲ 2.7	▲ 1.0	▲ 0.8	▲ 0.6	▲ 0.3
	6月	▲ 6.7	▲ 8.4	▲ 4.0	▲ 2.7	▲ 1.7	1.7	▲ 0.7	0.0	1.1	1.3
	9月	▲ 5.8	▲ 5.3	▲ 1.3	▲ 1.3	▲ 2.7	▲ 0.5	0.7	▲ 0.5	▲ 0.3	▲ 0.4
	12月	▲ 13.2	▲ 12.4	▲ 3.9	▲ 5.4	▲ 3.1	▲ 0.8	▲ 1.0	▲ 0.5	▲ 0.4	1.1
2020年	3月(見通し)	▲ 18.6	▲ 11.1	▲ 4.5	▲ 6.9	0.3	▲ 7.5	▲ 2.3	▲ 1.3	▲ 3.2	▲ 0.7



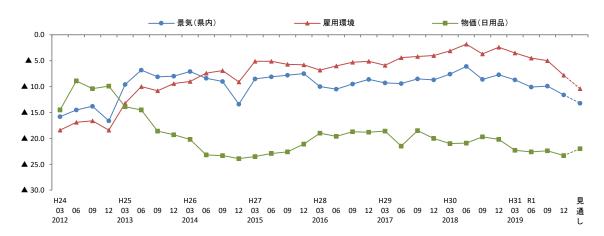
II. 消費指数(内訳)

1. 景気判断

(1) 景気判断の概況

景気判断指数は▲42.7 (前期比 5.4 ポイント下落) と 4 期連続で悪化した。指数を構成する個別指数でみると、「景気(県内)」、「雇用環境」、「物価(日用品)」の 3 項目すべてが悪化となった。

なお、今後の見通しについては \blacktriangle 45.6(今回調査比 2.9 ポイント下落)と悪化が見込まれている。個別指数では、「物価(日用品)」が \blacktriangle 22.0(同 1.3 ポイント上昇)と改善が見込まれている一方、「景気(県内)」は \blacktriangle 13.2(同 1.6 ポイント下落)、「雇用環境」は \blacktriangle 10.4(同 2.6 ポイント下落)と、ともに悪化の見込みとなっている。



図表3 景気判断指数(内訳)の推移

調査時期		景気判断指数			
			景気(県内)	雇用環境	物価(日用品)
2018年	12月	▲ 30.3	▲ 7.7	▲ 2.4	▲ 20.2
2019年	3月	▲ 34.5	▲ 8.7	▲ 3.5	▲ 22.3
	6月	▲ 37.2	▲ 10.1	▲ 4.5	▲ 22.6
	9月	▲ 37.3	▲ 9.9	▲ 5.0	▲ 22.4
2019年	12月	▲ 42.7	▲ 11.6	▲ 7.8	▲ 23.3
	(前期比)	(▲ 5.4)	(▲ 1.7)	(▲ 2.8)	(▲ 0.9)
	(前年同期比)	(▲ 12.4)	(▲ 3.9)	(▲ 5.4)	(▲ 3.1)
2020年	見通し	▲ 45.6	▲ 13.2	▲ 10.4	▲ 22.0
	(今回調査比)	(▲ 2.9)	(▲ 1.6)	(▲ 2.6)	(1.3)

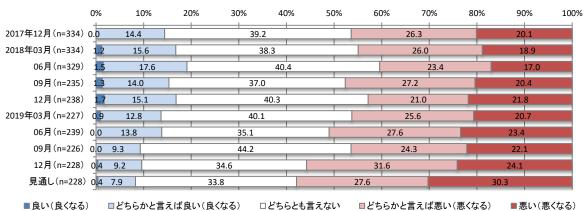
【指数の見方】

景気判断指数は景気(県内)、雇用環境、物価(日用品)の3項目の合計からなり、値は100~▲100の範囲をとります。指数がプラスであれば県内景気は高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば低迷していると判断します。

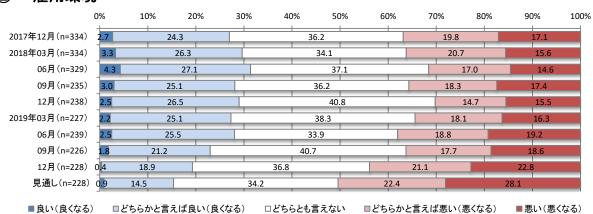


(2) 景気判断の推移

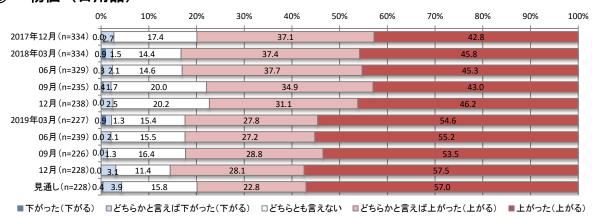
① 景気(県内)



② 雇用環境



③ 物価(日用品)



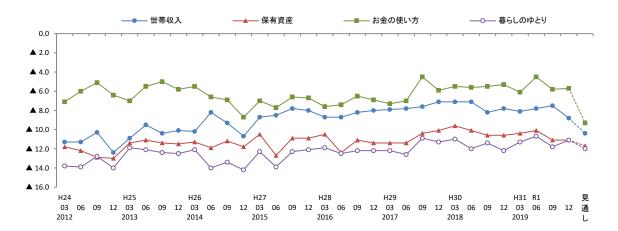


2. 暮らし向き判断

(1) 暮らし向き判断の概況

暮らし向き判断指数は▲36.7 (前期比 0.5 ポイント下落)と小幅ながら 2 期連続で悪化した。指数を構成する個別指数でみると、「暮らしのゆとり」と「お金の使い方」は小幅ながら改善した一方、「世帯収入」は悪化した。また、「保有資産」は横ばいとなった。

なお、今後の見通しについては $\blacktriangle 43.4$ (今回調査比 6.7 ポイント下落)と悪化の見通しとなっている。個別指数では、「世帯収入」が $\blacktriangle 10.4$ (同 1.6 ポイント下落)、「保有資産」が $\blacktriangle 11.7$ (同 0.6 ポイント下落)、「お金の使い方」が $\blacktriangle 9.3$ (同 3.6 ポイント下落)、「暮らしのゆとり」が $\blacktriangle 12.0$ (同 0.9 ポイント下落)と、すべての項目で悪化が見込まれている。



図表 4 暮らし向き判断指数(内訳)の推移

調査時期		暮らし向き判断指	数			
			世帯収入	保有資産	お金の使い方	暮らしのゆとり
2018年	12月	▲ 35.9	▲ 7.8	▲ 10.6	▲ 5.3	▲ 12.2
2019年	3月	▲ 35.9	▲ 8.1	▲ 10.4	▲ 6.1	▲ 11.3
	6月	▲ 33.1	▲ 7.8	▲ 10.1	▲ 4.5	▲ 10.7
	9月	▲ 36.2	▲ 7.5	▲ 11.1	▲ 5.8	▲ 11.8
2019年	12月	▲ 36.7	▲ 8.8	▲ 11.1	▲ 5.7	▲ 11.1
	(前期比)	(▲ 0.5)	(▲ 1.3)	(0.0)	(0.1)	(0.7)
	(前年同期比)	(▲ 0.8)	(▲ 1.0)	(▲ 0.5)	(▲ 0.4)	(1.1)
2020年	見通し	▲ 43.4	▲ 10.4	▲ 11.7	▲ 9.3	▲ 12.0
	(今回調査比)	(▲ 6.7)	(▲ 1.6)	(▲ 0.6)	(▲ 3.6)	(▲ 0.9)

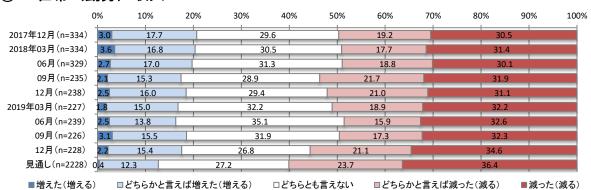
【指数の見方】

暮らし向き指数は世帯収入、保有資産、お金の使い方、暮らしのゆとりの4項目の合計からなり、値は 100 ~▲100 の範囲をとります。指数がプラスであれば暮らし向きは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば低迷していると判断します。

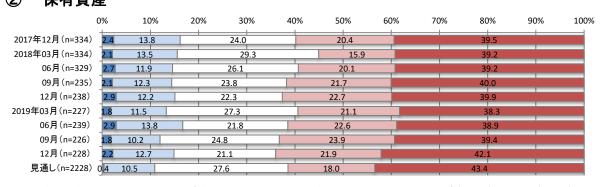


(2) 暮らし向き判断の推移

(1) 世帯(勤労)収入

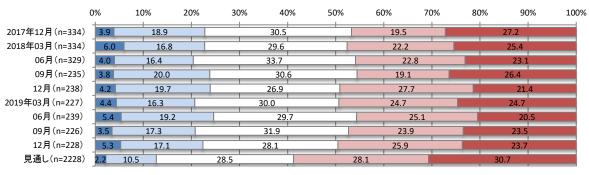


2 保有資産



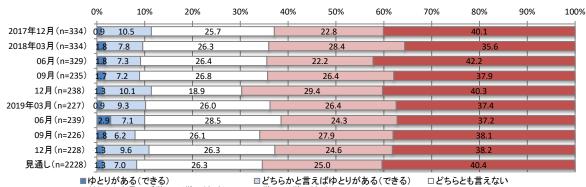
■増えた(増える) ■どちらかと言えば増えた(増える) □どちらとも言えない ■どちらかと言えば減った(減る) ■減った(減る)

3 お金の使い方



■積極的 ■どちらかと言えば積極的 □どちらとも言えない ■どちらかと言えば控えている(控える) ■控えている(控える)

(4) 暮らしのゆとり



■どちらかと言えば厳しい(厳しくなる) ■厳しい(厳しくなる)

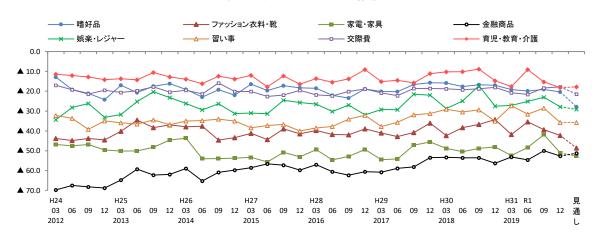


III. 支出意向

1. 支出意向 D I の推移

支出意向DIの平均値は▲33.2 (前期比 3.8 ポイント下落)と 3 期ぶりに悪化した。支出意向DIを構成する 8 つの項目でみると、「交際費」が小幅ながら改善となった一方、その他の 7 項目はいずれも悪化となった。

なお、今後の見通しについては▲35.6 (今回調査比 2.4 ポイント下落)と悪化が見込まれている。8 つの項目でみると、「金融商品」と「育児・教育・介護」では改善、「習い事」では横ばいが見込まれているものの、その他の5項目では悪化の見通しとなっている。



図表5 支出意向DΙの推移

調査時期		支出意向D	Ī							
		平均値	嗜好品	ファッション・ 衣料品	家電· 家具	金融商品	娯楽・ レジャー	習い事	交際費	育児·教育 ·介護
2018年	12月	▲ 31.4	▲ 17.0	▲ 34.3	▲ 48.1	▲ 56.3	▲ 27.5	▲ 35.1	▲ 18.0	▲ 14.7
2019年	3月	▲ 32.4	▲ 19.2	▲ 41.8	▲ 52.5	▲ 53.2	▲ 27.2	▲ 27.3	▲ 20.8	▲ 17.6
	6月	▲ 30.7	▲ 19.9	▲ 35.4	▲ 48.3	▲ 54.7	▲ 25.2	▲ 31.6	▲ 21.6	▲ 9.1
	9月	▲ 29.4	▲ 19.1	▲ 39.4	▲ 41.9	▲ 50.0	▲ 23.0	▲ 28.5	▲ 18.4	▲ 15.3
2019年	12月	▲ 33.2	▲ 20.4	▲ 42.3	▲ 51.1	▲ 52.7	▲ 27.9	▲ 35.8	▲ 17.8	▲ 18.2
	(前期比)	(▲ 3.8)	(▲ 1.3)	(▲ 2.9)	(▲ 9.2)	(▲ 2.6)	(▲ 4.9)	(▲ 7.3)	(0.6)	(▲ 3.0)
	(前年同期比)	(▲ 1.8)	(▲ 3.4)	(▲ 8.0)	(▲ 3.0)	(3.7)	(▲ 0.4)	(▲ 0.6)	(0.2)	(▲ 3.5)
2020年	見通し	▲ 35.6	▲ 27.9	▲ 48.7	▲ 52.8	▲ 51.3	▲ 29.2	▲ 35.8	▲ 21.5	▲ 17.8
	(今回調査比)	(▲ 2.4)	(▲ 7.5)	(▲ 6.4)	(▲ 1.8)	(1.4)	(▲ 1.3)	(0.0)	(▲ 3.7)	(0.4)

【DI値の見方】

各項目とも、現状判断についてそれぞれDI値を算出する。DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、算出方法は次の通り。

例) 嗜好品DI值

= (「1. 意欲的である」と回答した世帯の割合 \times 1.0+「2. どちらかと言えば意欲的である」と回答した世帯の割合 \times 0.5) - (「3. どちらかと言えば控えている」と回答した世帯の割合 \times 0.5+「4. 控えている」と回答した世帯の割合 \times 1.0)



2. 支出意向(大きな買い物)の推移

大きな買い物の支出意向をみると、「予定がある」と回答した世帯の割合は、「海外旅行」が 2.2%(前期 比 0.9 ポイント上昇)と 2 期連続で上昇した一方、「自家用車の購入」は 3.9%(同 0.5 ポイント低下)、「住 宅、土地の購入」は 0.9%(同 0.9 ポイント低下)とともに 2 期連続で低下したほか、「住宅リフォーム」は 1.3%(同 3.1 ポイント低下)と 3 期ぶりに低下しており、3 項目で低下となった。

大きな買い物(支出)に前向きな世帯(「予定がある」に「検討中である」を合わせた世帯)の割合は、「海 外旅行」で上昇した一方、他の3項目では低下となった。

0% 10% 20% 30% 40% 2018年03(n=331) 6.3 13.5 2018年06(n=329) 5 5 14.6 2018年09(n=235) 3.4 16.2 自家用車 2018年12(n=238) 15.5 4.6 の購入 2019年03(n=227) 5.7 13.2 2019年06(n=239) 5.9 13.0 2019年09(n=226) 4.4 12.4 2019年12(n=228) 3.9 12.3 2018年03(n=332) 1.5 2.4 2018年06(n=329) **1.2** 3.0 2018年09(n=235) 0.4 4.3 住宅、土地 2018年12(n=238) 0.0 5.0 の購入 2019年03(n=227) 0.4 4.4 2019年06(n=239) 2.1 3.4 2019年09(n=226) 1.8 2.2 2019年12(n=228) 0.92.2 2018年03(n=332) 15.4 2018年06(n=329) 3.3 15.8 2018年09(n=235) 2.1 15.3 住宅 14.7 2018年12(n=238) 2.9 リフォーム 2019年03(n=227) 2.2 17.6 2019年06(n=239) 3.8 13.4 2019年09(n=226) 4.4 11.5 2019年12(n=228) 1.3 11.4 2018年03(n=332) 6.3 2018年06(n=329) 1.5 6.1 2018年09(n=235) 2.1 6.8 2018年12(n=238) 2.1 7.1 海外旅行 2.6 2019年03(n=227) 5.7 2019年06(n=239) 0.8 7.9 2019年09(n=226) 1 3 5.3 2019年12(n=228) 2.2 5.3 ■予定がある ■検討中である □予定がない

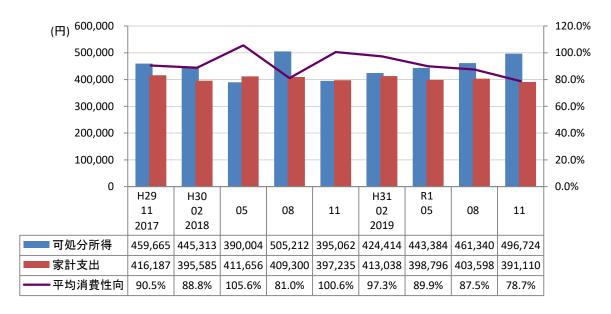
図表6 支出意向(大きな買い物)の推移



IV. 家計簿調査

図表7 2019年11月の家計簿(228世帯)

		図衣 / 2019 · 調 査 年 月	2018年	計溥(228 世 2019年	2019年	(単位	:円)
調:	杳	項目	11月	8月	11月	前期比	前年同期比
		世帯主の定例給与《支給額》	321,969	335,866	353,980	18,114	32,011
		世帯主の臨時給与《支給額》	2,815	48,324	3,197	▲ 45,127	382
44		A.世帯主の給与《支給額》	324,784	384,190	357,177	▲ 27,013	32,393
給		世帯員の定例給与《支給額》	117,492	116,414	113,562	▲ 2,852	▲ 3,930
与		世帯員の臨時給与《支給額》	2,122	11,142	919	▲ 10,223	▲ 1,203
		B.世帯員の給与《支給額》	119,614	127,556	114,481	▲ 13,075	▲ 5,133
		世帯収入合計《支給額》(A+B)	444,398	511,746	471,658	▲ 40,088	27,260
		世帯主の定例給与《手取り額》	250,709	241,232	257,388	16,156	6,679
		世帯主の臨時給与《手取り額》	2,390	38,088	2,152	▲ 35,936	▲ 238
		C. 世帯主の勤労収入合計《手取り額》	253,099	279,320	259,540	▲ 19,780	6,441
		世帯員の定例給与《手取り額》 世帯員の臨時給与《手取り額》	97,400 1,789	96,077 9,145	92,398 762	▲ 3,679 ▲ 8,383	▲ 5,002 ▲ 1,027
		D. 世帯員の勤労収入合計《手取り額》	99,189	105,222	93,160	▲ 12,062	▲ 6,029
			,	·	,		<u>, , , , , , , , , , , , , , , , , , , </u>
		世帯勤労収入合計《手取り額》(C+D)	352,288	384,542	352,700	▲ 31,842	412
収		1. 公的年金給付(老齡、障害、遺族年金) 2. 保険給付金(医療、介護、失業保険)	11,340 1,613	45,513 2,076	10,678	▲ 34,835 ▲ 1,053	▲ 662 ▲ 590
入		3. 各種手当(児童手当、障害者手当など)	3,510	3,989	3,095	▲ 1,033	▲ 415
手		4. 利息、株式配当、投信分配金	2,762	1,226	1,439	213	▲ 1,323
取		5. 事業収入(個人事業、農林水産業など)	2,623	1,208	2,451	1,243	▲ 172
りり		6. 不動産収入(駐車場、アパート家賃など)	1,479	2,272	2,118	▲ 154	639
額		7. 有価証券売却・解約金(株、投資信託など) 8. 不動産売却(土地、住宅、マンションなど)	0	959	564	▲ 395	564
——————————————————————————————————————		9. 中古品売却(リサイクルショップなど)	68	186	302	116	234
		10. 保険満期返戻金	5,336	9,429	394	▲ 9,035	▲ 4,942
		11. 保険一時金(生命保険、損害保険など)	4,067	89	5,982	5,893	1,915
		12. 相続、贈与、退職金	0	0	95,614	95,614	95,614
		13. 祝金、謝礼金、香典など 14. 身内からの仕送り	1,029 2,101	2,496 2,094	1,186 2,009	▲ 1,310 ▲ 85	157 ▲ 92
		15. 借り入れ(カードローン、キャッシング)	3,059	1,173	1,750	577	▲ 1,309
		16. その他	3,787	4,088	15,419	11,331	11,632
	L	E. その他収入(控除後)	42,774	76,798	144,024	67,226	101,250
	_	. 収入計 (C+D+E)	395,062	461,340	496,724	35,384	101,662
	_	き費(飲食会費は含まない)	57,550	58,730	55,641	▲ 3,089	▲ 1,909
	<u> </u>	主居費(家賃、駐車場、修繕) K道·光熱費(電気、ガス、上下水道、灯油など)	23,216 28,513	12,220 25,161	13,701 28,016	1,481 2,855	▲ 9,515 ▲ 497
	_	生活用品(生活雑貨、家事消耗品など)	10,840	11,317	10,560	▲ 757	▲ 280
	5. 初	皮服・装飾費(衣服、アクセサリー等)	12,703	10,243	12,189	1,946	▲ 514
	_	医療・介護・理美容(通院、医薬品など)	14,296	11,176	13,745	2,569	▲ 551
		交通費1(バス、鉄道、飛行機、高速道路料金など)	4,832	7,944	4,980	▲ 2,964	148
		交通費2(ガソリン代) 自動車関連費用(車検、メンテナンス、タイヤなど)	16,773 16,516	17,385 17,894	16,483 25,343	▲ 902 7,449	▲ 290 8,827
		通信費(電話、新聞、受信料、プロバイダー料金など)	22,744	22,256	22,967	711	223
		教育費(授業料、教材費、学習塾、部活費用など)	13,111	10,285	12,856	2,571	▲ 255
支	_	育児費(子ども用品、保育園、幼稚園など)	3,326	3,657	3,409	▲ 248	83
出	_	交際費(飲食会費、贈答品、冠婚葬祭費など) 娯楽、趣味(旅行、レジャー、映画鑑賞など)	14,335 10,391	20,063 15,215	13,899 12,664	▲ 6,164 ▲ 2,551	▲ 436 2,273
		習い事(英会話、料理教室、スポーツクラブなど)	2,577	4,336	3,486	▲ 2,331	909
	_	高額商品(パソコン、家電、家具、インテリアなど)	4,311	25,061	15,055	▲ 10,006	10,744
	_	金融商品1(株、国債、外貨、金など)	21,029	1,534	1,540	6	▲ 19,489
	_	金融商品2(投資信託、変額·定額年金保険) # 3 短落1(住宅ローン)	4,638	12,717	4,937	▲ 7,780	299
	_	借入返済1(住宅ローン) 借入返済2(自動車、学資、カードローン)	25,891 10,840	28,768 10,350	27,330 12,292	▲ 1,438	1,439 1,452
	_	税金、各種保険料支払い(給与天引き以外)	33,216	33,563	34,561	998	1,345
		身内への仕送り(学生など)	10,131	11,855	10,759	▲ 1,096	628
		小遣い、その他	35,456	31,868	34,697	2,829	▲ 759
		. 支出計	397,235	403,598	391,110	▲ 12,488	▲ 6,125
	平	与消費性向(支出計÷収入計×100)	100.6%	87.5%	78.7%	▲ 8.8%	▲ 21.9%
		平均貯蓄性向(1一平均消費性向)	▲ 0.6%	12.5%	21.3%	8.8%	21.9%



図表 8 家計の収支と平均消費性向の推移

家計簿調査によれば、収入面では可処分所得(収入の手取り額)が 497 千円となり、前年同期比で 102 千円の増加となった。勤労収入では、「世帯主の勤労収入合計(手取り額)」が 6 千円の増加、「世帯員の勤労収入合計(手取り額)」が 6 千円の減少となり、これを合わせた「世帯勤労収入合計(手取り額)」は 353 千円で前年同期とほぼ同額となった。「その他収入(控除後)」は 144 千円で同 101 千円の増加となった。このうち増減額の大きな項目をみると、「相続、贈与、退職金」が 96 千円増加、「その他」が 12 千円増加となった一方、大きく減少した項目はなかった。

支出面では支出合計が 391 千円となり、前年同期比で 6 千円の減少となった。増減額の大きな項目をみると、「高額商品 (パソコン、家電、家具、インテリアなど)」が 11 千円増加、「自動車関連費用(車検、メンテナンス、タイヤなど)」が 9 千円増加となった一方、「金融商品 1 (株、国債、外貨、金など)」が 19 千円減少、「住居費 (家賃、駐車場、修繕)」が 10 千円減少となった。

この結果、平均消費性向(家計支出/可処分所得)は78.7%(前年同期比21.9ポイント低下)となった。



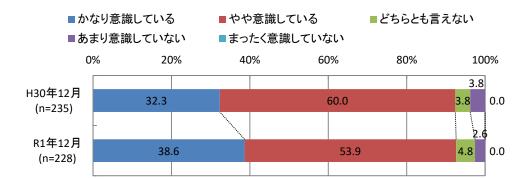
V. 特別調査

1. 節約の意識について

(1) 節約の意識について

日々の生活でどの程度節約を意識しているか尋ねたところ、「かなり意識している」が 38.6%、「やや意識している」が 53.9%となり、これを合計した「(節約を) 意識している」と回答した世帯は 92.5%と、昨年 (平成 30 年 12 月) 調査 (92.3%) から 0.2 ポイント上昇し、小幅ながらさらに割合を高めた。

一方、「まったく意識していない」との回答は昨年と同様に皆無となり、「あまり意識していない」と回答した世帯は 2.6%と、昨年調査 (3.8%) に比べて 1.2 ポイント割合が低下した。



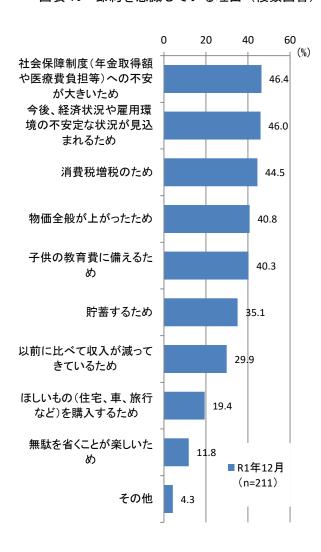
図表 9 節約の意識について



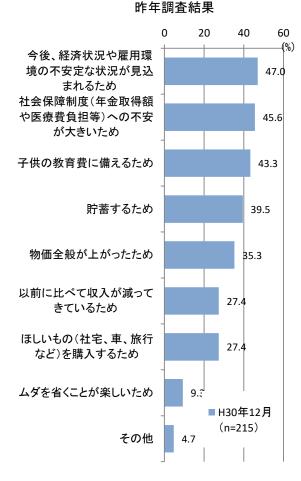
(2) 節約を意識している理由

(1)で節約を意識していると回答した世帯に対して、その理由(複数回答)を尋ねたところ、「社会保障制度(年金取得額や医療費負担等)への不安が大きいため」が46.4%と最も多く、次いで「今後、経済状況や雇用環境の不安定な状況が見込まれるため」が46.0%、「消費税増税のため」が44.5%、「物価全般が上がったため」が40.8%、「子供の教育費に備えるため」が40.3%と4割台で続いた。

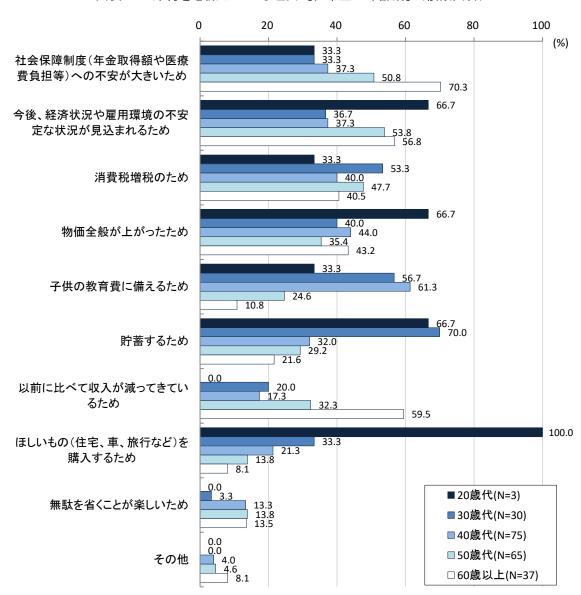
図表 10 節約を意識している理由(複数回答)



(参考)節約を意識している理由(複数回答)



次に節約を意識している理由を世帯主の年齢別にみると、全体で1位の「社会保障制度(年金取得額や医療費負担等)への不安が大きいため」では、60歳以上で7割以上と突出した高い割合を示した一方、年代が下がるにつれて割合が低下しており、年代による意識の違いがみられた。2位の「今後、経済状況や雇用環境の不安定な状況が見込まれるため」では、20歳代で6割台、50歳代と60歳以上で5割台と、この3つの年代で高い割合を示した。

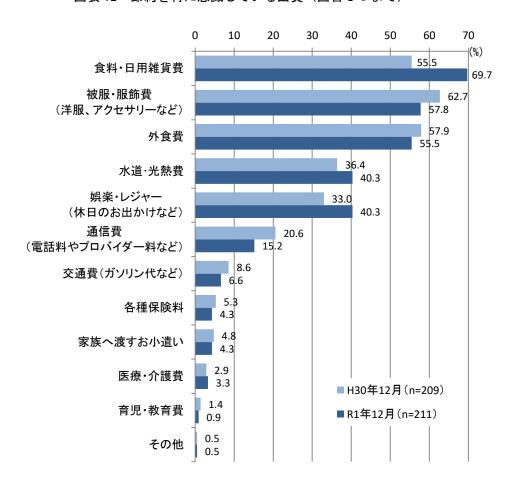


図表 11 節約を意識している理由 [世帯主の年齢別] (複数回答)



(3) 節約を特に意識する出費

(1)で節約を意識していると回答した世帯に対して、特に節約を意識している出費について尋ねた(回答は3つまで)ところ、昨年の調査では3位の「食料・日用雑貨費」が69.7%で最も割合が高く、次いで同1位の「被服・服飾費(洋服、アクセサリーなど)」が57.8%、同2位の「外食費」が55.5%で続くなど、順位に変動が見られた。総じてみれば、出費の頻度の高い「食料・日用雑貨費」についての節約意識の高まりや、「被服・服飾費(洋服、アクセサリーなど)」や「外食費」といった不要不急の支出を抑えたいという意向が引き続きうかがえた。



図表 12 節約を特に意識している出費(回答3つまで)



VI. 調査の概要

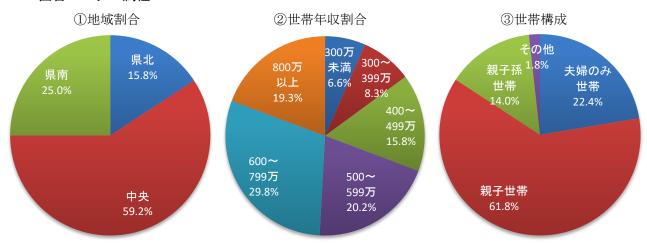
1. 調査の目的

秋田県民の暮らし向きや今後の見通しについて時系列的に捉えるとともに、具体的な商品やサービスに対する支出動向を把握することにより、景気判断等の基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査の内容

- ◆ 専属モニターを利用したアンケート調査
- ◆ モニター世帯数:244世帯 有効回答数:228世帯 回答率:93.4%

3. 回答モニター属性



4. 調査の対象者

秋田県内に在住する勤労者(サラリーマン)世帯(世帯人数2人以上の世帯)

5. 調査期間

2019年12月2日(月)~13日(金)

6. 地域区分

地域名	対象となる市町村名
県 北	大館市、能代市、北秋田市、鹿角市、三種町、八峰町、小坂町、藤里町、上小阿仁村
中央	秋田市、由利本荘市、潟上市、男鹿市、にかほ市、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村
県南	横手市、大仙市、湯沢市、仙北市、美郷町、羽後町、東成瀬村

くお問い合わせ先>

株式会社 フィデア情報総研 地域政策コンサルティング部 (秋田事業所) 後藤/佐藤

秋田事業所

〒010-0001 秋田県秋田市中通 3-1-41 北都銀行本店 3F

Tel: 018-837-1727 Fax: 018-834-5508

山形支社

〒990-0043 山形県山形市本町 1-4-21 荘銀山形ビル 8F

Tel: 023-626-9017 Fax: 023-626-9038 E-mail: kenkyuu@fir.co.jp

URL : https://www.fir.co.jp/